

ロボット学者はなぜ小説を書くのか？

漱石アンドロイドと 人間学としてのロボット研究

ロボットの想像力の冒険



漱石アンドロイド
オープニングパフォーマンス
「ポーの奇妙な物語」——開会の辞に代えて」

第一部

「なぜ人間を考えるためにロボットを作るのか？」

(13時15分～15時)

登壇者

石黒 浩 (大阪大学)

谷口忠大 (立命館大学)

谷島賢太 (二松学舎大学)

休憩

(15時～15時15分)

漱石アンドロイド学生サークルパネル展示

第二部

「ロボット学者はなぜ小説を書くのか？」

(15時15分～17時)

登壇者

伊豆原潤星 (二松学舎大学)

加藤隆文 (大阪成蹊大学)

増田裕美子 (二松学舎大学)

谷口忠大 (立命館大学)

夏目房之介 (マンガ批評家)

谷島賢太 (二松学舎大学)

会場

二松学舎大学

九段キャンパス1号館

中洲記念講堂

日時
2024年
3月
2日
13時～17時

日
土

参加費無料
事前申込制

検索 漱石アンドロイド

申し込みは
こちらから



お問い合わせ先
漱石アンドロイド事務局
soseki-a@nishogakusha-u.ac.jp

ロボット学者はなぜ小説を書くのか？

——漱石アンドロイドと人間学としてのロボット研究

漱石アンドロイドとは

研究・教育のために、二松学舎大学と大阪大学が共同で2016年12月より運用している、夏目漱石を再現したアンドロイド。ロボット工学の第一人者石黒浩氏が監修を務め、漱石の孫である夏目房之介氏が声を提供している。

石黒浩

1963年滋賀県生まれ。大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻教授・ATR石黒浩特別研究所客員所長（ATRフェロー）。社会で活動できるロボットの実現を目指し、これまでにヒューマノイドやアンドロイド、自身のコピーロボットであるジェミノイドなど多数のロボットを開発。著書に、『ロボットとは何か』（2009年）、『アンドロイドは人間になれるか』（2016年）、『アンドロイド基本原則』（2018年）など。

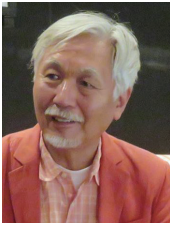


谷口忠大

1978年京都市生まれ。立命館大学情報理工学部教授。人間の言語・記号的コミュニケーションを創発の視点から扱う記号創発システム論を提唱、記号創発ロボティクス分野を開拓する。本をゲーム形式で紹介しあう「ビブリオバトル」の考案者。著書に『コミュニケーションするロボットは創れるか』（2010年）、『心を知るための人工知能』（2020年）、『僕とアリスの夏物語 人工知能の、その先へ』（2022年）など。



夏目房之介
元学習院大学教授／マンガ批評家
漱石アンドロイドの声



谷島貫太
二松学舎大学文学部准教授
技術哲学・メディア論



増田裕美子
二松学舎大学大学院文学研究科教授
比較文学・比較文化



伊豆原潤星
二松学舎大学文学部非常勤講師
日本近現代文学



加藤隆文
大阪成蹊大学講師
美学・哲学・記号論



「人間のようなもの」の存在は、そもそも人間とは何かという問いを突きつける。人間そっくりのアンドロイドの研究を進め漱石アンドロイドの制作も手掛けた石黒浩、人間のように記号を生み出すロボットの研究「記号創発ロボティクス」を展開してきた谷口忠大。これら二人のロボット研究者は、ロボットを通して人間の輪郭を問いつづけてきた。加えて二人は、ロボットにまつわる小説を出版している異色のロボット研究者でもある。ロボット研究と小説の両面から、人間を考えるためのロボットについて討議する。

会場

二松学舎大学
九段キャンパス1号館地下2階
中洲記念講堂

住所

〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16

アクセス

東京メトロ東西線・半蔵門線、都営新宿線
「九段下」駅下車 2番出口より徒歩8分
(鉄道各線「市ヶ谷」「飯田橋」駅下車 徒歩15分)

※会場には駐車場がありません。お車でのご来場はご遠慮ください。

地図

